

# 第1学年2組 生活科学習指導案

授業日 平成29年9月29日(金) 5校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 三星 雄大

会場 1年2組教室

## 1 単元名

としょかんたんけんたい -ほんぽ一とのヒミツをみつけよう-

## 2 本単元の価値

本単元は、「小学校学習指導要領解説生活編」内容(4)を受けて設定した。

### 内容(4)

公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなでするものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。

本単元では、図書館を自分とのかかわりでとらえながら、図書館に対する気付きの質を高める子どもを目指す。「図書館を自分とのかかわりでとらえながら」とは、図書館の働き(図書館を快適に利用してもらうために働く職員、工夫、様々な年齢層が利用していることを指す。以下省略)に着目し、自分の思いや願いを実現しようとする「見方・考え方」を生かして、図書館に関する個別的な気付きと効果を関係付けて考えることをさす。「図書館に対する気付きの質を高める」とは、自分を含めたどの利用者にとっても利用しやすい場所だと気付くことをさす(図書館に関する関係的な気付き)。

図書館に繰り返し行くだけでは、「また行きたい。だって、好きな本がたくさん置いてあるから」などと、個別的な気付きに留まってしまう。子どもの思いや願いは、「本を借りること」「本を読むこと」である。繰り返し本を借りに行くだけでは、図書館に対する親しみはもつことができても、気付きの質を高めることはできない。どの利用者にとっても利用しやすい場所だと子どもが気付くためには、追究の視点を変える必要がある。

私は、気付きの質を高めることに有効に働く図書館の働きに自然と気付くことができるようにする。例えば、次の時間帯をねらって本を借りに行く場を設定する。

- 「乳幼児向けの読書会『おはなしのじかん』を行っている時間帯(様々な年齢層が利用していること)
- 比較的空いている時間帯(図書館司書の方が子どもとかわる機会がたくさん生まれる)

子どもは、乳幼児を連れた保護者や『おはなしのじかん』の活動を自然と目にする。また、比較的空いている時間帯に利用することで、探している本を図書館司書に聞く機会がたくさん生まれ、親しみをもつことができる。このように図書館の働きにふれる活動を経た上で、図書館司書との交流の場を設定する。図書館司書が行うクイズを通して、新たな発見をしたい気持ちになっていく。「新たな発見をしたいという気持ち」こそ、生活科における「見方・考え方」を生かしている姿である。

また、「見方・考え方」を生かして活動して気付いたことを表現したくなった子どもに、タブレット端末のプレゼンテーションアプリを使ってまとめることを提案する。このアプリは、文字や写真、動画をつないで表現できるアプリである。「ほんぽ一とのヒミツ発表会」の際に活用することにより、自分が気付いていない図書館の働きを知ることができる。つまり、気付きの質を高めることに有効に働くのである。

このような一連の学習過程を経て、図書館に対する気付きの質を高める。図書館に対する気付きの質を高めた子どもは、「図書館の本を大切に使いたい」「マナーを守って図書館を利用したい」等と、公共の意識をもって適切に利用しようとする態度も育成されていく。

このように、生活科の様々な資質・能力が発揮させることができることに本単元の価値がある。

## 3 本単元で目指す姿

**図書館を自分とのかかわりでとらえながら、図書館に対する気付きの質を高める子ども**

具体的には、**図書館の働きに着目し、自分の思いや願いを実現しようとする「見方・考え方」**を生かし、図書館に関する個別的な気付きと効果を関係付けて考えることを通して、自分を含めたどの利用者にとっても利用しやすい場所だと気付く姿。

#### 4 本単元で育成する資質・能力

単元カード参照

#### 5 指導計画 全13時間 (390)

単元カード参照

#### 6 指導の構想

まず、ほんぽーとから借りてきた本の読み聞かせを行う。子どもは、学校図書館にはない本に関心を持ち、借りに行きたくなる。そこで、ほんぽーとに本を借りに行くことを提案する。「行ってみたい。紹介してもらった本以外にも楽しい本がたくさんあるって聞いたから楽しみだ」などとほんぽーとにある本に関心をもつ。

本を借りに行く活動は複数回設定する。活動後は、したことと次にしてみたいことを問う。子どもは、「今日は、物語の本を借りました。とても楽しかったです」などと満足し、また行きたい気持ちになる。なお、気付きの質を高めることに有効に働く事実其自然と気付くことができるような日にちや時間帯に図書館へ行くようにする。

その後、ほんぽーとは自分にとってどのような場所かを問う。子どもは、「ほんぽーとは、また行きたくなる場所です。だって、私が好きな本がたくさん置いてあるからです」などと、**図書館に関する個別的な気付き(①知識・技能)**を自覚する(C0)。このとき、小学生に本の読み聞かせを行う取組を行っていることを伝えておく。子どもは、この取組に興味を示し体験してみたくなっている。

##### 働き掛け1

**図書館司書との交流の場を設定し、次の活動で取り組みたいことを問う。**

次の活動に向けた思いや願いをもたせるための働き掛けである。

まず、図書館司書との交流の場を設定する。活動内容は、本の読み聞かせ、手遊びである。楽しい気持ちでいっぱいの子どもの、感想を問う。子どもは、肯定的な感想を発表する。

その後、図書館司書による「ほんぽーとのヒミツクイズ」を行う。

①ほんぽーとは、何歳から使えるのでしょうか(多様な年齢層が利用している事実)。

→答え0歳 乳幼児向けの読書会『おはなしのじかん』を行っている写真を提示

②ほんぽーとでは、ご飯を食べてもいいのでしょうか(利用者が快適に図書館を利用するための工夫)。

→答え× 飲み物を飲んでよい場所の写真を提示

③何をしているところでしょうか(利用者のニーズに合わせて親切に対応する職員)。

→求めている本を探すのを手伝っている。子どもと職員がかかわっている写真を提示

答えと共に、これら三つは「ほんぽーとのヒミツ」であることを伝える。そして、次の活動で取り組みたいことを問う。子どもは、本を借りに行きたいという気持ちと新たなヒミツを発見をしたい気持ちになる。このような子どもは、**図書館の働きに着目し、自分の思いや願いを実現しようとする「見方・考え方」**を生かして活動しようとしている。授業終末では、これからの学習課題を確認する。子どもは、「ほんぽーとのヒミツを見つけに行こう」と学習課題を設定する。

##### 働き掛け2

**「ほんぽーと」の館内図を基に、どのルートに行くかを問う。**

「見方・考え方」を生かし、追究の視点を明確にさせるための働き掛けである。

「ほんぽーと」の館内図に、ルートを書き足しておく。ルートは以下の三つである。

①ワクワクたんけんたい(多様な年齢層が利用していることに気付きやすいルート)

②ドキドキたんけんたい(利用者が快適に図書館を利用するための工夫に気付きやすいルート)

③ルンルンたんけんたい(利用者のニーズに合わせて親切に対応する職員がいることに気付きやすいルート)

ルートを書き足す理由は、ルートに沿って探検することにより、「ほんぽーとのヒミツ」に気付きやすくなるからである。子どもに、「ほんぽーと」の館内図を渡して、どのルートに行くかを問う。子どもは、**図書館の働きに着目し、自分の思いや願いを実現しようとする「見方・考え方」**を生かして、これまでの活動と比較して考える力(②**思考力・判断力・表現力**)を発揮してルートを選択する。

### 働き掛け3

「ほんぽーとのヒミツ発見ツアー」の場を設定し、どのようなヒミツを見つけたのかを問う。

「見方・考え方」を生かしながら、図書館の働きをとらえさせるための働き掛けである。まず、「ほんぽーとのヒミツ発見ツアー」の場を設定する。この活動は、図書館司書を案内役とする。子どもは、ルートにあるものについて質問したり実際に利用している年齢層に気付いたりする。このときの子どもは、**図書館の働きに着目し、自分の思いや願いを実現しようとする「見方・考え方」**を生かして図書館に関する個別的な気付き（①**知識・技能**）を自覚する。

活動後は、どのようなヒミツを見つけたのかを問う。子どもは、調査活動を想起し、**図書館の役割に着目し、自分の思いや願いを実現しようとする「見方・考え方」**を生かして、図書館に関する個別的な気付きと効果とを関係付けて考える（②**思考力・判断力・表現力**）。なお、まとめる際は、ロイロノートを活用させ、プレゼンテーション形式でまとめさせる（**ツール活用能力**）。

### 働き掛け4

「ほんぽーとのヒミツ発表会」を行い、ほんぽーとはどのような場所かと大切にしたいことを問う。

図書館に関する関係的な気付きの自覚を促すための働き掛けである。

「ほんぽーとのヒミツ発表会」では、ルートごとにヒミツを発表させる。子どもは別ルートのヒミツを知らない。そのため、友達がどのようなヒミツを発見したのか知りたくなっている。子どもの発表によりどの利用者にとっても気持ちよく使える場所であることを自覚できるように板書を構成する。そして、ほんぽーとはどのような場所かと大切にしたいことを問う。子どもは、図書館に関する関係的な気付き（①**知識・技能**）を自覚し公共の意識をもって適切に利用しようとする（③**態度**）。

最後に、「ほんぽーとたんけんにつき」の形式でまとめることを促す。こうすることで子どもは、**図書館を自分とのかかわり度とらえながら、図書館に対する気付きの質を高める子ども（Cn）**となる。

## 7 本時の構想（本時7/13時間）

### (1) ねらい

絵本の読み聞かせやほんぽーとクイズの活動を通して、ほんぽーとを構成する要素をとらえ、次の活動への思いや願いをもつ。

### (2) 主張（展開）3Q（45分）

#### — このような子どもに（C0） —

- 図書館に関する個別的な気付きを自覚している（ほんぽーとは自分が楽しくなる場所だ）。
- ロイロノートを活用して、簡単なプレゼンテーションを作成することができる。

#### — このように働き掛けると【働き掛け1】 —

##### ○ 読み聞かせや手遊びの場を設定し、どのような気持ちかを問う。

・説明「今日は、皆さんが楽しみにしていた活動ですよ。図書館司書の青野さんがいろいろな活動をしていただきます。青野さんよろしくお願ひします」

※絵本の読み聞かせや手遊びの活動は、青野さんの指示により進める。

・発問「ここまでの活動を通して、楽しかった人」

・補助発問「どこからそう思ったのですか」

・補助発問「どうしてそう思ったのですか」

※ 子どもに問い返したり全体に投げ掛けたりしながら話し合いをコーディネートする。

##### ○ ほんぽーとクイズの場を設定し、次の活動で取り組みたいことを問う。

・説明「とても楽しい気持ちになっているのですね。今日の活動はここで終わりではありません。次は、先生と青野さんが協力してほんぽーとのヒミツクイズを出します」

##### ①ほんぽーとは、何歳から使えるのでしょうか（授業者）。

→答え0歳 乳幼児向けの読書会『おはなしのじかん』を行っている写真を提示

・発問「どうして『おはなしのじかん』を行っていると思いますか」（青野さん）

・説明「ほんぽーとは、赤ちゃんも楽しめる図書館を目指して頑張っています。だから、赤ちゃんも楽しめる『おはなしのじかん』を行っているのです」（青野さん）

##### ②ほんぽーとでは、食べ物を食べてもよいのでしょうか（授業者）。

→答え× 飲み物を飲んでよい場所の写真を提示

- ・発問「どうして決まった場所でしか飲み物を飲むことができないと思いますか」  
(青野さん)
- ・説明「皆さんの予想した通り、本の近くや勉強している場所で飲むと本が汚れてしまうことがあります。気持ちよく使ってもらうための決まりがあるのです」  
(青野さん)

### ③何をしているところでしょ(授業者)。

- 答え 本を探すのを手伝っている。子どもと職員がかかわっている写真を提示
- ・説明「私たちは、皆さんに気持ちよく図書館を使ってほしいと考えています。だから、読みたい本が見つかるように一生懸命に探します」  
(青野さん)
- ・発問「このように探してもらった人はいますか」
  - ・補助発問「そのときの気持ちを教えてください」
- ・発問「今日は、青野さんに来ていただいて本を読み聞かせてもらったりクイズをしたりしましたね。次の活動でやってみたいことはありますか」
  - ・補助発問「どうしてそのように思ったのですか」
  - ・補助発問「どこからそのように思ったのですか」
  - ・補助発問「〇〇さんと似ている考えの人はいますか」
- ・学習課題「ほんぽーとのヒミツを見つけに行こう」
- ・指示「次の活動でやってみたいことをワークシートに書きましょう」

### このようになり (G1)

#### ○ 楽しかったことを発表する。

- ・手遊びが楽しかった。
- ・初めて読んでもらった本だったからワクワクした。
- ・僕は自分で読んだことがある本だけど、好きな本だったから嬉しかった。
- ・今度ほんぽーとに行ったら借りてみたい。

#### ○ 次の活動に向けた思いや願いをもつ。

〈クイズ①〉

- ・赤ちゃんも楽しくなるようにしていると思う。
- ・赤ちゃんは本を読めないから読んでもらう。そうすると、楽しくなる。

〈クイズ②〉

- ・本が汚れてしまうから。
- ・本がぬれてしまうと次に来た人が嫌な気持ちになるから。

〈クイズ③〉

- ・僕も本を探すのを手伝ってもらった。すごく嬉しかった。
- ・私は、パソコンで調べても分からないことがあった。でも、青野さんに教えてもらったら分かって嬉しかった。
- ・どの本がどこにあるのか全部覚えていてすごいと思った。

〈次の活動〉

- ・今日のヒミツは、子ども図書館の中のことだった。ほんぽーとには、もっとたくさんのヒミツがあると思うから知りたい。
- ・今までは本を借りたり見たりするだけだったから、ヒミツをたくさん見つけてみたい。
- ・まだ行ったことがない2階にヒミツがありそうだから、行ってみたい。

※ このような発言や記述が見られたら、図書館の働きに着目し、自分の思いや願いを実現しようとする「見方・考え方」を生かして活動しようとしている姿と判断する。

本時ここまで

### このように働き掛けると【働き掛け2】

#### ○ 「ほんぽーと」の館内図を基に、どのルートに行くかを問う。

- ・発問「皆さんにほんぽーとの館内図を渡します。ルートが三つあるのがわかりますか。どのルートに行きたいですか。そして、その理由は何ですか。ワークシートに書きましょう」
- ※ 生活班が選択したルートに行けるようにする。すべての班に保護者ボランティアがいるようにする。

### このようになり (C2)

- 「見方・考え方」を生かし、追究の視点を明確にする。
  - ・ 1階は、これまでも行ったことがある。だから、2階にたくさんヒミツがありそうだ。2階に行くルートにしよう。 友達が言っていたDVDコーナーがヒミツかもしれない。
  - ・ 1階の奥の方は行ったことがない。だから、1階の奥の方にもヒミツがあるかもしれない。1階のルートにしよう。 何があるのか分からないからワクワクする。
  - ・ 2階に行ってみたらDVDのコーナーがあるのは知っている。そこは行ったことがあるから、別のルートにしよう。 きっと新しい発見があるはずだ。 ☆②思考力・判断力・表現力

### このように働き掛けると【働き掛け3-①】

- 「ほんぼーとのヒミツ発見ツアー」の場を設定する。
  - ※ 児童向けの本が置いてある部屋以外にも行く。迷惑にならないように事前にマナー指導を行っていく。
  - ・ 説明「今日は、『ほんぼーとのヒミツ発見ツアー』を行います。①～③のグループに分かれていますね。今日は、それぞれのグループに図書館司書の方がついてくださいます。どのようなヒミツがあるのかをしっかりと見てきてくださいね。活動後は、それぞれのグループで質問タイムを取ります」
  - ※ 当日は、それぞれのグループに保護者ボランティアに付き添ってもらい活動を行う。
  - ※ 三星は、事前に子どもが気付くであろうヒミツを撮影しておく。

### このようになり (C3-①)

- 三つのグループに分かれてほんぼーとのヒミツ発見ツアーを行う  
調査活動では次の工夫に気付くことができるように図書館司書と事前に打合せを行っておく。
  - ・ お年寄りの人が新聞コーナーにたくさんいた。
  - ・ 勉強する場所が1階の奥にあった。
  - ・ 小さな部屋があって、そこでも勉強できることが分かった。
  - ・ パソコンの部屋を使える部屋があった。
  - ・ たくさん本が綺麗に並べられていた。
  - ・ 大人が2階の勉強する場所にたくさんいた。
  - ・ DVDを観る場所は、仕切られていて周りから見えないようになっていた。 ☆①知識・技能

### このように働き掛けると【働き掛け3-②】

- ほんぼーとが行って気付いたことと効果をまとめる場を設定する。
  - ・ 説明「『ほんぼーとのヒミツ発見ツアー』を行いましたね。まとめ方を説明しますよ」
  - ※ 次の内容を説明する。
    - ・ 生活班で一つのスライドを完成させること。
    - ・ ヒミツが分かる写真を選ぶこと。
    - ・ ①写真→②説明→③効果の順でまとめること。
    - ・ 完成したスライドは、airdropで共有すること。

### このようになり (C3-②)

- 図書館に関する個別的な気付きと効果をロイロノートにまとめる。
  - ・ お年寄りの人が新聞コーナーにたくさんいた。僕のおじいちゃんも使っていると言っていた。色々な新聞があって使いやすいからだ。
  - ・ 勉強する場所が1階の奥にあった。奥にあると静かに集中して勉強ができると思った。
  - ・ パソコンの部屋を使える部屋があった。電源もあって、使いやすい。
  - ・ たくさん本が綺麗に並べられていた。みんなが借りるときに探しやすい。
  - ・ 大人が2階の勉強する場所にたくさんいた。2階だと静かだから勉強しやすい。
  - ・ DVDを観る場所は、仕切られていて周りから見えないようになっていた。周りを気にしないで観ることができる。 ②思考力・判断力・表現力
  - ※ ほんぼーとのヒミツを分かりやすくまとめるために、使用する写真を選択したり説明する言葉を考えたりする。このような姿が見られたら協働性を発揮していると判断する。
  - ※ ロイロノートを活用して、写真や言葉でスライドを作成している姿が見られたらツール活用能力を発揮していると判断する。

